

<奄美研修> 令和7年7月19日(土)

1.金作原ツアー

- ・金作原原生林は奄美大島の亜熱帯植物が多く残されている原生林
- ・亜熱帯植物が天然のまま残っている原生林であり、植物以外にも天然記念物に指定されている動物が多く見られる
- ・自然環境保護のため、金作原を利用する際には認定ガイドの同行が必須となっている(利用者数の制限もある)
- ・金作原のルール: 動植物を採らない、ゴミの投棄や焚き火は禁止



(金作原散策中に見た印象に残っている動植物)

ザトウムシ、アマミハナサキガエル、オキナワキノボリトカゲ
ヒメハブ、ヒカゲヘゴ、アマミセイシカ など



<ヒカゲヘゴ>





<アマミエビネ>



<ヒメハフ>

2.奄美野生生物保護センター

- ・保護センター内見学
 - ・保護センター職員による講義、ワークショップ
 - (1) 奄美では野生生物のロードキルが多く、今年度6月時点で約70件起きている。
 - (2) ノネコの影響で奄美の天然記念物が襲われている。
 - (3) オーバーツーリズムにて自然への悪影響が起きている
- ※グループワークを実施し、各班で解決方法についての意見交換を行った。

3.QuruGuru（クルグル）見学

- ・アマミノクロウサギの生態や特徴についての説明を聞いた。
- ・本物のアマミノクロウサギとルリカケスの観察を行った。

【奄美研修後の感想】

奄美研修では奄美の自然環境について学ぶことが出来た。
しかし、ロードキル、ノネコ問題、オーバーツーリズムなどにより、少しずつ自然環境への影響が出ている現実を知り、マンガース根絶したり、対策をしてもまだまだ解決には至らない事に驚いた。
奄美の市民一人一人が、現状について把握し、もっと個々でできることをやっていけたら、奄美の自然を守ることに繋がるのではと感じた。
外来種のモニタリングと伐採作業への参加、家の周囲のゴミ收拾、その他の自然保護活動があれば参加していきたい。

1.やんばるの森 ナイトハイク ・ ヨンナコースを散策



オキナワヤマタカマイマイ、ハナサキガエル、リュウキュウコノハズクなどの生き物を沢山観察することが出来た。
コースに入る前に粘着マットを踏み、靴裏についている種や土を落とした。これはやんばるの森にない種などが侵入してしまうと在来種に影響したり、外来種の侵入防止のためである。
これは奄美の金作原原生林でも実施したらいいのではと感じた。
ガラパゴス諸島ではかなり嚴重に侵入防止対策をしていると聞いた事がある。

<沖縄研修> 令和7年7月24日(木) 2日目

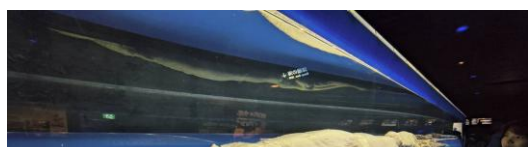
1.安田くいなふれあい公園

ヤンバルクイナの生態や環境の状態がわかる資料や実際に生息する環境を再現した観察ブースにヤンバルクイナを飼育している。



(ヤンバルクイナのクー太)
6年ぶりの再会。
元気な姿が見れて嬉しかった。

2. 美ら海水族館



6年ぶりの美ら海水族館。
前回よりも観光客が多くて



驚きと共に人の多さに疲れた。
ジンベイザメは何度見ても
迫力があつた。

3. 星空観察（やんばるの森 室内）

- ・ 沖縄の方角からしか見れない星、惑星などについて説明を受けた。
- ・ ネットを利用し、その地域で見れる星空が見れる。

国頭の星空は街の明かりが少なく、大気が安定していて世界でも
星空観察はトップレベルで、88の星座のうち82星座が観察できる。
(国頭村森林公園パンフより)

今回は雨のため、室内での星空観察だった。
講師の方の話は分かりやすく、星空など天体は苦手だが興味を持
って聞けた。

<沖縄研修> 令和7年7月25日（木） 3日目

1. 辺土名高校 見学

昭和21年1月5日に開校した。
沖縄県北部の通称「かんばる」といわれる貴重な野生生物の宝庫で
ある緑豊かな自然環境に恵まれた場所にある。
「自然環境科」「普通科」で、各学年各1クラスの計6クラス。

「自然環境科」は、やんばるの自然を生かして、「沖縄の自然」や「環
境調査法」などを学んでいる。





やんばる地域や沖縄にいる希少種について、写真やスライドを用いて説明やクイズなどがあり、具体的でとても分かりやすかった。自然環境科ではヤギ、ウサギ、犬、フトアゴヒゲトカゲなど多種多様な生き物を飼っており、とても羨ましく感じた。ヤギのエサやり体験をしたが、人懐っこいやぎで可愛かった。こんな学校が近くにあれば是非行きたかった。

2.OIST：沖縄化学技術大学院大学 見学

OISTは、世界の科学技術の発展に貢献し、沖縄での貢献し、沖縄でのイノベーションの拠点となるために2011年に設立された。5年一貫制の博士課程教育を提供し、国を超えて、分野を超えて、優れた研究者が共同で、最先端の科学研究を行っている。学部・学科を設けず、境界線のない科学的なアプローチによって、質の高い研究を実現。科学技術の革新、そして沖縄の経済発展の原動力となるイノベーション創出に取り組んでいる。90の研究ユニットがある。日本人が15%に対して、85%は外国人で、54か国から来ている。





OISTは校内が広く、斬新なデザインでとても圧倒された。
OISTでの研究についての話は少々難しかったが、それぞれ学生が、興味がある事について学んでいるのはいいなあと感じた。

<沖縄研修> 令和7年7月26日(木) 4日目

1.琉球大学見学

車で1周した後、理学部の内部を見学した。



2.国際通り観光



【沖縄研修後の感想】

台風が接近するなど、天候が悪く、予定通りに進まず残念だった。
沖縄の自然環境（やんばる地域）は、奄美と似たような環境であり、自然保護について同じような問題・課題があると感じた。
沖縄は日本でも有数の観光地であり、オーバーツーリズムによる環境への影響が、奄美以上に大きいように思う。

ヤンバルクイナ、オキナワヤマタカマイマイなど、沖縄にしかいない生物を守るためには、沖縄の自然について知ることから始まると思う。自然を守るためにはまず知る、そして環境を守るための行動をする。それを市民として一人一人が実施していく事が必要だと感じた。

【研修を終えて】

世界自然遺産の奄美・沖縄の両地域の自然環境に触れることができ、この自然環境は当たり前でなく、特別であり、未来まで永遠に続くために守らなくてはならないと改めて感じた。

小学校の自由研究の際に、世界自然遺産は登録されても自然環境が保てなければ抹消もあると知った。

奄美は世界自然遺産の島であることを誇りに思うこと、環境に配慮した行動を行い、マナーを守ること、自然環境問題に関心を持ち続ける、野生生物保護にも努めていきたいと思う。

今回、奄美市の高校生代表として、貴重な研修に参加させて頂き、本当に感謝しています。ありがとうございました。

今後、今回の学びが活用できるように日々、問題意識を持ち過ごしていきたいと思う。